

宜野湾市平和大使育成事業

「平和」を次世代へ伝える



宜野湾市では、平和の大切さを次世代へ継承できる人材育成を目的として「宜野湾市平和大使育成事業」に取り組んでいます。令和6年度は、市立中学生8名と青年層1名の計9名が宜野湾市平和大使に任命され、県内での研修や、広島県・山口県での県外派遣研修を通して様々なことを学んでいます。その成果を各中学校や平和大使学習報告会にて発表しました。

11/2

多言語平和絵本読み聞かせ&平和大使報告会



宜野湾市民図書館において「多言語平和絵本読み聞かせ&平和大使報告会」を開催しました。

英語・スペイン語・ベトナム語・韓国語の絵本読み聞かせのほかに、平和大使は『うちなーぐち』を交えた日本語の絵本を読み聞かせしました。読み手の皆さんはそれぞれ自国の戦争の歴史や平和への思いをお話してくださいました。平和大使もこれまで学んだことを市民の皆さまへ報告し、参加者の皆さまと平和について考える機会となりました。



▲各国の読み手の皆さんと一緒に



▲平和大使の発表



イベントの様子(宜野湾市 YouTube)▶

12/5



平和大使学習報告会

令和6年度宜野湾市平和大使学習報告会を行いました。今年、宜野湾市平和大使に任命された9名は、県内の戦跡や資料館をめぐる事前研修をはじめ、8月には被爆地・広島において平和記念式典に参列しました。平和記念資料館では原爆の実相について学びを深め、全国から集まった青少年と意見交換を行いました。県外研修後は、中学校や市平和啓発イベントにおいて平和を発信する活動を行いました。

平和大使の運木美里依さんは、「沖縄でも様々な人が、物が、犠牲になった上で私たちが暮らしています。地上戦によって失われてしまった命、こわされた家、それらを知ることとも平和への第一歩なのかもしれません。今回の平和研修で、私はもう一度平和について考えることができました。このことをもっと周りに伝えていきたいと思っています」と、これまでの学習を振り返りました。



▲市長・教育長・学校関係者の皆様と



▲中学校平和イベントで発表する大使

12/7



フォローアップ研修

昨年度の平和大使を対象としたフォローアップ研修を実施しました。(今回は今年度の平和大使も参加し合同で研修を行いました)

午前は、読谷村教育委員会 中田耕平氏(なかたこうへい)を講師に、読谷村の歴史を伝える返還の碑、不戦宣言の碑、米軍上陸の地碑や「艦砲め喰え残さー」の歌碑を巡ったほか、戦前の読谷村やトリイステーションについて学習しました。午後は、地元読谷村の中学生と一緒に沖縄戦の写真を使ったフォトランゲージや不戦宣言づくりを行いました。

読谷村の戦後の住民の苦悩と、米軍基地建設から返還後までの歴史を学び、平和な社会のために自分ができることについて皆と一緒に考えました。



▲フォトランゲージの様子



▲「艦砲め喰え残さー」の歌碑



▲不戦宣言の碑